

2016年9月9日

各 位

国立大学法人東京大学
株式会社大和証券グループ本社

東京大学と大和証券グループによる産学連携
「東京大学本郷テックガレージ（大和証券グループ寄附プロジェクト）」を設置

国立大学法人東京大学（総長：五神 真ノ以下：東京大学）は株式会社大和証券グループ本社（執行役社長：日比野 隆司ノ以下：大和証券グループ）の支援によりアントレプレナーシップ教育を進める拠点として新たに「東京大学本郷テックガレージ（大和証券グループ寄附プロジェクト）」を2016年8月1日に設置しました。

東京大学は、これまでトップレベルの教育研究をベースに毎年500以上の発明を行い、1600件の共同研究を実施し、200を超えるベンチャーを生み出して参りました。今般こうしたエコシステムをさらに強化すべく「東京大学本郷テックガレージ（大和証券グループ寄附プロジェクト）」を設置しました。本学は今後も東京大学ビジョン2020でお示したとおり、卓越した学知の蓄積を十分に活用し、産学官民の緊密な連携を図り、その学術的成果を広く社会に還元していく所存です。

大和証券グループは、中期経営計画～“Passion for the Best”2017～において、「新規産業の育成と企業の持続的成長に対する支援」を基本方針の一つに掲げ、その個別戦略として「次世代成長企業の発掘・育成と成長資金の供給」に取り組んでいます。今般設置した「東京大学本郷テックガレージ（大和証券グループ寄附プロジェクト）」を通じて、東京大学の学生による自主的なプロジェクトの推進や教育プログラムの拡充を図ることは、次世代を担うスタートアップ企業の創出及び育成に繋がると考え、その趣旨に賛同し支援を実施しています。

■「東京大学本郷テックガレージ（大和証券グループ寄附プロジェクト）」とは

本郷テックガレージは、学生の自主的なプロジェクトからスタートアップ企業のタネを生み出すことを目指した拠点です。日本では起業の絶対数が少ないと言われていますが、その原因のひとつは起業のシーズとなる技術的なプロジェクトの絶対数が少ないことにあります。Googleやフェイスブックをはじめとしたアメリカのスタートアップ企業には、当初より起業を目指したのではなく学生が作りたいモノを作るプロジェクトが発展して大きなビジネスになった事例が数多くあります。

本郷テックガレージでは、東京大学の学生が技術的なプロジェクトを自由に進められるように設計されたスペースを設置します。作業や議論のできるスペースに加えて、各種工具や工作機械、設計用ソフトウェア、計算リソースなどを用意し、ハードウェアでもソフトウェアでもアイデア発案からプロトタイプの実装までを迅速に行える環境を提供します。また、東京大学においてアントレプレナーシップ教育を担当する産学協創推進本部から教育プログラムや支援プログラムを順次提供することで、学生の技術的挑戦をより円滑に行えるよう支援します。本郷テックガレージは、このような環境の中で学生が進めるプロジェクトから、大きなイノベーションのタネを生み出すことを目指しています。

なお、本郷テックガレージは 2016 年 8 月から学生プロジェクトの受け入れを開始しましたが、本格稼働は今秋を予定しており、現在、設備の導入や施設の整備を順次進めています。

東京大学と大和証券グループは本件をはじめ今後も連携を図り、日本経済の生産性・潜在成長力の向上に資する取り組みとして、イノベーション人材の育成や技術系スタートアップ企業の創出を目指して行きます。

以 上